



ふくせん会員発！

ケアマネジャーを対象にした、福祉用具個別援助計画書の作成研修会

去る 12 月 13 日（火）、愛知県介護支援専門員協会が主催する「福祉用具『個別援助計画書の作成』研修会」が開催された。来年 4 月の指定基準改正で、個別援助計画作成が義務化となる流れを受け、ケアマネジャーにも福祉用具の個別援助計画書について具体的に理解を深め、今後の業務に活かしてもらうことが狙いだ。このたびケアマネジャーからの定員を上回る応募に、募集を締め切らざるをえなかったという。職域等で普及できるよう、ベテランのケアマネジャーの参加も多くみられた。

個別援助計画作成の義務化に向けて

今回の研修会は、愛知県所属のふくせん会員である伊藤昭宏氏（株式会社ヤマシタコーポレーション）の「やってみたい！」という熱心な思いから始まった。厚生労働省による来年度施行の指定基準の見直しでは、個別援助計画作成の義務化はほぼ確実となっているところであり、「愛知県でも、ケアマネジャーに個別援助計画を理解してもらう機会を増やし、普及に努めたい」との自主的な取り組みが、今回の研修会開催につながった次第である。ふくせんは、伊藤氏を通じ愛知県介護支援専門員協会に働きかけを行い、同協会も「大事なことからやりたい」と快くこの提案に応じてくれた。



ふくせんを代表して挨拶をしたのは、12 月 10 日にリーダー研修を受講したばかりの青山洋祐氏（有限会社かしわばらメディカル）。「リーダー研修を受けるまで、自分は『プロ』を意識していない節がありました。リーダー研修を通じ、福祉用具の『プロ』として、自社・他社を問わず福祉用具専門相談員を育てていかなければ、業界が衰退してしまう時代がきたのだと感じました。個別援助計画書の義務化により、他の介護サービスと同じラインに立てるのではないかと期待しています。ケアマネジャーの皆様には、本日の研修を通して、『福祉用具も捨てたもんじゃない』というところを見てもらいたいです。」（同氏）



← 青山洋祐氏

有意義な人生の一助に

講義、演習のコーディネートを務めたのは、山本一志氏（本会山本事務局長）。山本氏は講義の中で、「福祉用具サービスは、介護サービスの中で唯一、人の手を借りず『自分自身で』使えるサービスです。自立支援の中で上手に福祉用具を使うことで、QOL が向上します。人生の最後を有意義に過ごしてもらえるサービスなんです」と福祉用具サービスの普及に対する思いを語った。



↑ 山本一志氏



→ 山田幹夫氏

「義務化の流れの中、今回いち早く研修会を催したいという思いがあり、ふくせんの協力を得て開催に至りました」とは、山田幹夫氏（財団法人愛知県シルバーサービス振興会事務局長）。「最後まで頑張って研修を受けてください」と参加者を激励した。

福祉用具の「プロ」として

今回、グループワークのファシリテーターとして、12 名のふくせん会員（福祉用具専門相談員）が協力してくれた。中には、本会が開催した「個別援助計画の普及研修リーダー養成研修（リーダー研修）」（厚生労働省老人保健健康増進等事業の助成を受け、地域・職域で計画を普及するリーダーを養成した研修会）に参加したリーダーも数名。早速リーダーとしての取り組みが見られ、本会としても、今後の活動に期待が高まった。



演習は、グループワーク形式で実際にケアマネジャーに個別援助計画書を作成してもらい、計画書の具体的な理解を深めてもらうというものだ。ケアマネジャー、福祉用具専門相談員各々の視点で、闊達な議論がなされた。

個別援助計画書の大切さを実感

「当初ケアマネジャーの方々から、『個別援助計画書って大変だな』という声があがっていました。研修が進む中で、少しずつ、『個別援助計画書って有難いな、大事だな』という声が聞こえるようになり、研修会を開催した意義を感じました」とは、ファシリテーターの野沢昇悟氏（本会会員：リーダー研修受講者）。グループワークを通してのコメントだ。また、野村幸司氏（本会会員：リーダー研修受講者）は、「ニーズの抽出、目標設定のポイントの抑え方は、さすがケアマネジャーという感じ。福祉用具専門相談員としても、しっかりした計画書を作らなければならないと感じました」と気を引き締めた。



グループワークの様子



質疑応答の時間、受講者と議論を交わす山本氏

研修を終えて

研修の講師を務めた山本氏が、ケアマネジャーとの合同研修を開催するたびに、参加したケアマネジャーに伝えていることがある。それは、「ケアプランをください」ということだ。この言葉には、大きく頷く福祉用具専門相談員の姿も。個別援助計画はケアプランに基づいて作られるものだが、ケアプランを渡されていない福祉用具専門相談員もいるのが事実。「個別援助計画書は、ケアプランの総合援助目標の達成をお手伝いするもの。ぜひ、ケアプランをください」（同氏）

熊谷泰臣氏（愛知県介護支援専門員協会理事）は、「福祉用具に特化した研修は初めての試み。サービス担当者会議など、実践の際により深い議論ができるようになるでしょう」と期待を述べ、閉会の挨拶とした。



↑ 熊谷泰臣氏

一人でも多くのケアマネジャーの理解を得るために、今後も継続的な普及・啓発活動が必要である。愛知県では、これらの活動を通じ、ひいては「ふくせん愛知県ブロック」の組織化につなげたい考えだ。

参加したケアマネジャーの声・・・

- ・ケアマネジャーは、「どういう生活を望めるのか」先を見てプランニングしている。福祉用具の選定が達成目標になってしまわないように気をつけてもらえたら。
- ・今回の研修で、注意して見るべきポイントがわかったのでよかった。